

(専門科目)

科 目 名	特別講究 (社会心理学) 英語名 : Special Seminar on Social Psychology	必修/選 択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	松浦 均	
<b>【授業概要】</b> 本講究では、社会心理学における対人認知研究領域における新しい知見や考え方を紹介しながら、人間社会および社会性の獲得の問題に理解を深めることを目的とする。学修段階Ⅰとして、①対人認知の視点、②性格特性、③原因帰属と対応バイアス、④道徳性、について検討する。さらに学修段階Ⅱとして、最近の心理学分野において学術的検討がなされ始めた④利他的行動、⑤感謝、⑥寛容、について考究する。不寛容な現代日本社会において、今まさに検討すべき重要課題と位置づけ、受講生と共に考えていきたい。				
<b>【キーワード】</b> 対人認知、原因帰属、社会性、道徳性、共感性、向社会的行動、感謝、利他的行動、寛容				
<b>【授業の到達目標】</b> 1. 社会心理学における「対人認知研究」を通じて、現代社会および対人的コミュニケーションの様相を理解する。 2. 対人間の様々な問題について、利他的行動をキー概念として理解を深める。 3. 文献や先行研究をレビューしながら、過去から現代までの研究の流れを理解し、また隣接領域との関係性を確認して自身の研究がどこに位置づけられるのか把握できるようになること。 4. ここで学修した社会と心理に関する重要な知識を学校現場等で生かせるようになること。 5. 学校現場における自身の経験と、心理学的知見との関連を見だし、理解できるようになること。				
<b>【教育の方法】</b> スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
<b>【授業計画】</b>				
回	内 容			
1	オリエンテーション：本講究のねらいと進め方の説明【SC】			
2	学修Ⅰ：対人認知研究について（教科書①）			
3	学修Ⅰ：性格特性からみる評価の役割（教科書①）			
4	学修Ⅰ：原因帰属と対応バイアス（教科書①）			
5	学修Ⅰ：心の推論方略（教科書①）			
6	学修Ⅰ：道徳性について（教科書①）			
7	対人関係の諸問題に関する検討課題の抽出【SC】			
8	学修Ⅱ：援助行動、思いやり行動、向社会的行動、利他的行動（教科書②③⑤）			
9	学修Ⅱ：援助行動 援助行動研究における展望（教科書②③）			
10	学修Ⅱ：援助要請行動（教科書④）			
11	学修Ⅱ：被援助志向性（教科書④）			
12	学修Ⅱ：利他的行動（教科書③⑤、参考図書⑦⑧）			

13	学修Ⅱ：感謝について（教科書②③⑤、参考図書⑦⑧）
14	学修Ⅱ：寛容について（教科書⑤、参考図書⑦⑧）
15	学修のまとめと各自の研究課題におけるビジョンの策定【SC】
<b>試験</b>	
<b>【履修にあたっての準備・履修上の注意点】</b> 初回スクーリング受講後は、指定したテキストを読み、教員が提示した課題を行っていく。	
<b>【スクーリングでの学修内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学修初期のスクーリングでは、この授業の目的や学修の概要について説明する。学生と教員の間で目指すべきことを共有できたことを確認する。</li> <li>■ 指定されたテキストを読み、理解を深める。</li> <li>■ 提示したキーワードのいずれかに関連する先行研究や文献を検索し、検討すべき課題（テーマ）について考える。</li> <li>■ 学修段階Ⅰのスクーリングでは、テキストの内容を踏まえて、自身の教育現場や教育経験のなかで関連する事案や事例についての問題意識と課題設定を考え、レポートにまとめる。</li> <li>■ 学修段階Ⅱのスクーリングでは、テキストの内容を踏まえて、現代社会の様相と課題について考え、それらをもとに科目修得試験としてレポートにまとめる。</li> <li>■ 学修段階ⅠおよびⅡの内容を総合的にまとめ直し、各自で考える検討課題についての研究計画書（「問題と目的」の部分に相当）作成の練習にしていきたい。なお、博士学位論文の研究題目が定まっている場合は、本授業で参考にできる点があれば、反映されたい。</li> </ul> <p>なお、スクーリングは合計 4 コマ 6 時間以上をめどに行う。</p>	
<b>【評価方法】</b> 可否については、SC での議論（30%）、中間レポート（30%）、科目修得試験（40%）で評価する。	
<b>【教科書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>①唐沢かおり『みきわめと対人関係の心理学 なぜ心を読みすぎるのか』東京大学出版会 2017 年</li> <li>②高木修『人を助ける心 援助行動の社会心理学』サイエンス社 1998 年</li> <li>③高木修・竹村和久編『思いやりはどこから来るの？ 利他性の心理と行動』誠信書房 2014 年</li> <li>④水野治久監修・永井他編『援助要請と被援助志向性の心理学』金子書房 2017 年</li> <li>⑤伊藤亜紗編『「利他」とは何か』集英社新書 2021 年</li> </ul>	
<b>【参考図書】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥相川充『新版 人づき合いの技術 ソーシャルスキルの心理学』サイエンス社 2009 年</li> <li>⑦岡田美智男『＜弱いロボット＞の思考 わたし・身体。コミュニケーション』講談社現代新書 2017 年</li> <li>⑧M. メイヤロフ 田村真・向野宣之訳 『ケアの本質 生きることの意味』ゆみる出版 1987 年</li> </ul> <p>*その他、示したキーワードを元に、社会心理学研究、教育心理学研究領域の関心ある研究論文を探してみてください（日本心理学会『心理学研究』、日本社会心理学会『社会心理学研究』、日本教育心理学会『教育心理学研究』、日本応用心理学会『応用心理学研究』等）</p>	
<b>【教員メッセージ】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会心理学における様々な研究と検討課題について理解を深めていただきたいと思います。たいいてい、自身の日常を理解する上で様々な示唆があると思います。</li> <li>・教育現場等での自身の経験（事例やイベント）と学術的知見や見解とを常に結びつけて考える習慣を付けてもらいたいと思います。</li> <li>・教育に携わる人間は、心を広く持つことが肝要と考えます。私自身も寛容な姿勢を身につけていきたいと思います。</li> </ul>	
<b>【備考】</b> 特記事項なし	